

# 中国地整が見守り～アカウミガメの 赤ちゃん、工事現場から海へ～

国土交通省中部地方整備局四日市港湾事務所は、7月1日整備を進めている津松阪海岸津地区栗真町屋工区施工区域内においてアカウミガメの産卵を確認した。絶滅危惧種アカウミガメが無事孵化するように環境整備・見守りを続け、8月19日にアカウミガメの孵化を確認。9月5日に孵化率調査を実施し93個の孵化を確認した。

四日市港湾事務所は、三重大学学生が組織する三重大学アカウミガメ・スナメリ調査・保全サークル「かめつぶり」と協力し、アカウミガメが無事孵化するよう子亀ロードの整備や亀に配慮した工事の工程を調整する等の対策をした。孵化率調査は「かめつぶり」が実施。全国平均をはるかに上回る孵化率は、四日市港湾事務所や工事関係者の暖かい配慮と見守りのたまものといえよう。

アカウミガメは、絶滅危惧種で、本州に上陸して産卵する唯一のウミガメ。成長すると体長1メートル前後になる。太平洋域に生息するアカウミガメの産卵場所は日本沿岸のきれいな砂地に限られる。そのため、砂浜が防波堤へ工事で変容したり、ごみが多くカメが移動できないところは産卵できないため、産卵場所の減少が危惧されている。

四日市市周辺では、愛知県の遠州灘がアカウミガメの産卵場で有名で、観覧会なども盛んにおこなわれている。産卵の本場、とまでは言えない栗真町屋工区で迅速に対応した関係者は、赤ちゃんたちの恩人と言えよう。浦島太郎に出てくるカメは、本州上陸を考えると

アカウミガメだ、という説もある。  
○具体的な現場での対策  
(1) 子亀ロードの整備  
(2) 亀に配慮した工事

産卵場所から海側にかけて、ゴミ・草の撤去、整地、小堤防を整備した  
産卵場所から海への通路を確保するよう工程を調整  
○孵化率調査結果  
実施日：9月5日(休)

調査結果産卵数111個  
孵化確認数93個  
孵化率83・8% (今年の平均孵化率60～70%)



子亀ロード



「かめつぶり」による孵化率調査の様子

2013年(平成25年)10月1日(火曜日)